

令和7年度第5回一関市水道事業経営審議会 会議録

- 1 会議名 令和7年度第5回一関市水道事業経営審議会
- 2 開催日時 令和8年1月27日（火）午後2時30分から午後4時20分まで
- 3 開催場所 脇田郷浄水場 会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 二階堂満委員（会長）、千葉理恵委員（副会長）、阿部博之委員、小野寺敏彦委員、佐藤愛理委員、佐藤一利委員、高橋系子委員、冨永敏弘委員、蜂谷幸夫委員
※欠席者 荒木克明委員、石川晃委員、大浪友子委員、小野寺真奈美委員、佐藤誠委員、山川智美委員
 - (2) 事務局 伊東吉光上下水道部長、佐藤耕一上下水道部次長兼水道課長、阿部正則上下水道部次長兼東部上下水道課長、小野寺勝也経営総務課長、米田理恵子経営総務課長補佐兼総務係長、畠山博文経営総務課長補佐兼水道経営係長

5 議 題

- (1) 一関市水道事業ビジョン・経営戦略（案）について
- (2) その他

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 1人（うち報道機関1人）

8 会長あいさつ

本日は、本当に寒いところ、また、何かとお忙しいところ、第5回目の水道事業経営審議会にご出席いただき、感謝申し上げます。

今日で第5回目となり、今日を入れてあと2回となりました。

10年間の水道事業ビジョン、経営戦略を決めることになっているが10年後までは読めない部分も多いかと思います。

言うまでもなく、水道事業は私達、市民生活を支える上で、極めて重要な事業だと思うので、少しでも良い方向にビジョンと経営戦略をまとめ上げていきたいと考えているので、需要活発なご意見をお願いします。

9 審議内容

- (1) 一関市水道事業ビジョン・経営戦略（案）について
事務局から資料に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 「毎年度ローリング」と表記があるが、説明の中のローリングという言葉が私が調べたところ、一定期間の中で計画を毎年作成し直すことと書いてあった。少し表記を変えるか、追記するなどしてはどうか。

事務局 ローリングについては注釈の中なのに、わからない言葉があるような状態なので、ここは表現を考えたい。

委員 前回のビジョンでも表現されていた「お客様」だが、やはり市民ではなくお客様という表現がよいのか。市民だけではなく事業者もいるので、その表現をしているとは思いますが疑問に思った。

事務局 お客様という表現は、我々も何気なく記載をしていた。表記としてどうなのか考えてみたい。委員がおっしゃるとおり、企業への給水や一部ではあるが市外の方にも一関市の水を送っている地域もある。そういったところも含めて表現について考えたい。

委員 評価に「当市の施設利用率は」と書いてあり、「人口減少等による水需要の減少が原因の一つとなっています」とある。原因の一つということはあるが、主な減少の原因が何かを聞きたい。

事務局 施設利用率が低い要因だが、施設利用率については、施設の能力に対し、どの程度の水が使われているかということを表す指標になっている。

合併当時から施設が変わらないので容量が変わってないことが一つの大きな要因かと思う。

それに対し、水の使用量は減っていくわけで、分母の施設の能力を統廃合等により少なくしていくことが必要だと思う。それについては次の水道事業ビジョンにも盛り込んでいるが課題の一つとなっている。

委員 未普及地域における水供給の取組については、見直しをされているということで、基本的な考え方は、今後、補助金交付が可能な場合に進めていくということで良いか。

変な質問だが、未普及地域の解消に努めるとは謳っているが、この金額的なものとかをクリアした場合に進めるということであろうから、現実的にはほぼ無いと考えて良いか。

事務局 未普及地域の供給の関係である。委員の話のとおり、当初のビジョンではこの書き方ではなく、解消に努めていくという書き方をしていた。人口減少が進む中であるとか、そういう状況から、整備した場合に整備した経費を回収できるような仕組みにしないと、経営が持続的にできな

いという結論になり、このような要件を定めたという経過である。

来年度以降、この要件に合う地域がどの程度あるかわからないところですが、現時点では大規模な拡張工事という予定はない。

委員 強靱な水道施設の耐震化率で、順調という評価のようだが、目標というか、どの程度を考えていて、今現在がどれ位になっているので順調と捉えているのか。

事務局 水道施設の耐震化については、今後取り組む目標として強靱の部分に水道施設の耐震化率という指標を設定したいと考えている。

内容は、全部の管路ではなく、基幹管路と位置付けている導水管や送水管、口径の太い配水管の耐震化率を向上していくという指標を設定している。数値目標については、記載のとおりで設定している。

委員 具体的に耐震化というのは管を交換するのか、あるいは別の耐震化をするということになるのか。

事務局 耐震化については、管路の耐震化になるので、耐震管と呼ばれる管に入れ替えていく。これまでも毎年、布設替工事を行っており、基幹管路の布設替工事については全て耐震管を使っている。また、素案のリスクマネジメントで、管だけでなく施設の耐震化状況についても、数字を載せている。

委員 リスクマネジメントの中で施設の耐震化という部分がかかれているが、ここでの施設は交換ではなく何らかの補強ということになるのか。

事務局 現状を確認して建替と補強で比較検討して決めていくと考えている。

委員 施設の項目で、計画的な施設更新を進めていく必要があると書かれているが、施設更新の優先順位というか、どのような基準で考えているのか。例えば、耐震NGとなった物を優先にするとか、水源や浄水施設で耐用年数を過ぎたものを優先していくとか、何を一番の基準に考えているか教えていただきたい。

事務局 計画的な施設更新の考え方と優先順位だが、施設更新を進めていく上で一関市水道施設整備計画を立てており、整備計画での優先順位等を踏まえて決めていく。現在の整備計画における施設更新については全部終わっている。

次の一関市水道施設整備計画は、皆さんに審議いただいている水道事業ビジョンに基づき検討していくことになる。そこでは施設の規模や老朽具合、事業費といったところを勘案して決定していくことになるかと

思う。それも全市で優先的に整備するにはどこが良いのかということを検討し、計画に定めた上で実行する流れになる。

委員 水道料金の支払い方法について。若い世代の電子マネーによる支払方法が一般的になっているのに伴い、これらの手数料が結構馬鹿にならないと思う。水道事業として、支払方法のなかで手数料が掛からない支払を進めるといことは考えていないか。

事務局 口座振替の手数料が一番安いことから、口座振替にしてもらうことがよいが、現在普及している電子マネー等の支払が便利になってきているということで、利便性の面からそういう支払へも対応している。

市民から、クレジットカード決済への対応について要望を受けているが、こちらも手数料が高いことから、当市だけでなく他市町村でもまだやっていないところが多い。

今後の取組の部分で説明する予定だったが、それだけ手数料に違いがあると公平性が保てないこともあって納付書による支払を希望する方については、納付書発行手数料の導入なども検討するような取組もしていかなければならないということで記載をしている。

事務局 今、世の中の動きに逆行していくことができるかどうか我々としては考えなくてはいけない。自宅にいながら公共料金が支払えるという利便性は確かにあるし、納め忘れもそういう意味ではなくなっていく面もあると思う。

納付書の方々については、手数料が掛かっていないが、我々が納付書を発行する手間が掛かっているということもある。それらを天秤にかけ、どうしたら良いかの結論はすぐには出ないと思っている。

特にも若い世代を中心に電子マネーの利用が各分野で進んでおり、それを止めるという訳にはいかないという考えもある。

委員 基本的に手数料は、お客様が負担するということになるのか。

事務局 手数料については市というか、事業者側で負担をしている。

委員 施設利用率の低下のグラフと文章から、類似団体と比較して低い水準にある。結局、施設利用率は簡単に言うと稼働率であり、使う人が今も減ってきているし、今後も減る。本来、こんなに施設がなくても良かったとまでは断定できないが、もう作ってしまった話で、これを踏まえてどうやっていくことになるのか。

人口の減少などを考え、投資をどんどん抑えていくことになるのか。

事務局 対応策として考えられるのは、施設利用率を上げるために、必要な施設数を減らすことが一番大きいと思う。もう一つ考えられるのが、施設を更新する際に今の能力ではなく、小さくして更新すること。それから、二つそれぞれあるものを一つにするとか、そういったことになるかと思う。

なお、施設利用率を上げれば良いのだが、利用率を上げ過ぎると今度は余力がなくなることも考えられる。昨年の夏は渇水で脇田郷も前堀からバックアップをもらい凌げた。そういったことも頭に置きながら、どのくらいの率が適正なのかというあたりも今後検証していかななくてはならない。

委員 施設の老朽化の部分が書かれており、水道管であれば法定耐用年数が40年で実質的な耐用年数が60年から80年ということだが、幸い、一関市の割合は全国平均より低いようだが、もし、耐用年数が過ぎると具体的にどういう問題が起こるのか。漏水なのか、水質的な部分が悪くなるのか、どういう問題の発生が予想されるか。

事務局 老朽化に伴う影響だが、漏水事故の確率が増えると思う。水質的にも古い管を使うことで、管の中というのは夾雑物というか、ゴミではないが鉄管であれば錆が発生する。そういったことで赤水の発生が同時に起こる場合もある。

漏水が発生すると水の動きが急激に変わるので、その影響で管の中の錆などが剥がれて汚れた水が出るのが懸念されると思う。

委員 停電への備えの目指す姿で、非常用電源や多重化という表現があるが、多重化というのは知識不足でどういった意味かがわからなかったので説明いただきたい。

事務局 多重化は、通常使用している電源が一つ。停電の際に軽油や重油を使って自家発電装置等で発電をして電力を供給するという二つの方法を備えていることが多重化になる。

委員 広報活動の充実について、この中に記載するという事ではないが、一つの事例として市民フェスタに市の林政推進課といった課の方々が参加しているのを拝見した。水道課でも参加しているのか不明だがこういう普及方法もあるのではないか。

事務局 市民フェスタには下水道課で浄化槽のPRブースを毎年設けていたが、水道についてもPRの機会には有効かと思うので、実際に事業を行う際

に考えてみたい。

(2) その他

委員 水道のことでわからないことが市民の方々もあると思う。可能なら萩荘市民センターで説明会みたいなものができたらと思った。その説明会をお願いする場合は、どのように問い合わせをしたら良いか教えて欲しい。

事務局 テーマ、何人を予定しているか、どういった年代の方か、そういったところをお知らせいただき、日程を調整させていただきたいと思う。連絡は経営総務課をお願いする。我々もそういう機会を作っていただくことは大変ありがたいことなので、都合をつけて開催に協力できるようにしたいと思う。

10 担当課 上下水道部経営総務課